



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月15日

上場会社名 AI CROSS株式会社 上場取引所 東
コード番号 4476 URL <https://aicross.co.jp/>
代表者 （役職名） 代表取締役CEO （氏名） 原田 典子
問合せ先責任者 （役職名） 執行役員CFO Strategic Operations Group本部長 （氏名） 圖子田 健 TEL 050-1745-3021
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（個人投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績（2026年1月1日～2026年3月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	1,331	43.0	196	40.3	196	39.3	121	49.3
2025年12月期第1四半期	930	5.1	139	17.7	141	21.6	81	12.0

（注）包括利益 2026年12月期第1四半期 124百万円（58.3%） 2025年12月期第1四半期 78百万円（1.7%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	32.32	31.74
2025年12月期第1四半期	21.68	20.89

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	3,162	2,084	62.7
2025年12月期	3,084	1,946	60.2

（参考）自己資本 2026年12月期第1四半期 1,983百万円 2025年12月期 1,856百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年12月期	—				
2026年12月期（予想）		0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,300	27.7	600	61.9	590	61.1	360	117.9	94.69

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期 1 Q	4,087,850株	2025年12月期	4,083,850株
② 期末自己株式数	2026年12月期 1 Q	281,904株	2025年12月期	281,904株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期 1 Q	3,760,219株	2025年12月期 1 Q	3,755,446株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予測のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

我が国経済は、総じて緩やかな回復基調が続いています。今後は、雇用・所得環境の改善や政府による各種政策の効果などが、引き続き景気を持ち直しを下支えすることが期待されます。一方で、中東情勢や米国の通商政策をめぐる動向、さらには株式や為替をはじめとする金融資本市場の変動など、景気を下押しするリスクには引き続き留意が必要です。

このような環境下、当社グループは「Smart Work, Smart Life」をミッションとし、2025年2月14日公表の「中期経営計画 AIX2027 2025～2027（連結）」に基づき、メッセージングサービスのプラットフォーム提供から、メッセージングサービス×AIによるマーケティングソリューション提供へのモデル転換を推進しております。また、子会社である株式会社ロウプが有するマーケティング設計力・クリエイティブ制作力及びデータ分析・CRM（※1）／MA（※2）運用ノウハウと、当社のメッセージングサービス×AIを組み合わせることで、顧客企業に対する統合的なマーケティング支援のさらなる強化を図っております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,331,414千円（前年同期比43.0%増）、営業利益196,386千円（前年同期比40.3%増）、経常利益196,590千円（前年同期比39.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益121,548千円（前年同期比49.3%増）となりました。

当社グループは、2026年1月より報告セグメントを変更しております。従来の「Smart AI Engagement事業」は、メッセージングサービスとAIサービスを一体で展開してまいりましたが、AIサービスの事業拡大に伴い、「スマートメッセージング事業」と「AIトランスフォーメーション事業」の2セグメントに変更いたしました。この結果、「マーケティングソリューション事業」と合わせ、現在は3セグメントにて事業を運営しております。なお、前期に係る数値については、現行のセグメント区分に組み替えて表示しております。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

（スマートメッセージング事業）

スマートメッセージング事業は、主にB2Cビジネスを営む国内外の事業者に対して、エンドユーザーの保有するモバイル端末にSMS（※3）やRCS（※4）を配信するためのプラットフォームを提供しております。本事業が展開するビジネスコミュニケーションプラットフォーム関連市場は成長を続けており、2030年度にはSMSの配信数が14,268百万通に達するという調査結果（出所：デロイト トーマツ ミック経済研究所「ミックITリポート2025年12月号」）があります。今後も、本人認証や未入金督促等の通知にとどまらず、RCSを活用したプロモーションやMAとの連携が進むことで、関連市場は引き続き高い成長が見込まれます。

このような事業環境の中、SMS及びRCS配信・チャットボットプラットフォーム「絶対リーチ！RCS」を展開し、配信数の拡大を図っております。あわせて、収益性の高い国内顧客への注力及び金融・人材関連サービスを中心とした業界特化施策の推進、さらにはメッセージングサービスとAI技術を組み合わせた統合型ソリューションの提供により、サービスの付加価値向上と収益性の改善を進めております。

これらの結果、当セグメントの売上高は1,118,415千円（前年同期比24.1%増）、セグメント利益は298,467千円（前年同期比14.3%増）となりました。

（AIトランスフォーメーション事業）

AIトランスフォーメーション事業は、ノーコードAI分析ツール「Deep Predictor」を主要サービスとして展開しています。「Deep Predictor」は、従来データサイエンティストが担っていたAI分析を、直感的なユーザーインターフェースにより専門知識を持たない担当者でも容易に実行できるツールであり、顧客企業の課題に合わせた最適なプラン及びカスタマイズを組み合わせ提供しております。

生成AIをはじめとするAI技術の急速な普及を背景に、企業のAI活用ニーズは業種・規模を問わず拡大しており、関連市場は引き続き高い成長が見込まれます。このような環境の中、当事業は独自の顧客基盤と収益性を確立し、スマートメッセージング事業との連携も活かしながら、AIソリューション領域における事業拡大を推進してまいります。

これらの結果、当セグメントの売上高は52,960千円（前年同期比79.6%増）、セグメント利益は9,161千円（前年同期は8,541千円のセグメント損失）となりました。

（マーケティングソリューション事業）

マーケティングソリューション事業は、子会社である株式会社ロウプを通じて、広告企画・プロモーション、クリエイティブ制作、戦略立案・マーケティングリサーチ、メディア開発・運営など、顧客企業の課題に応じた総合的なコミュニケーション設計サービスを提供しております。

企業のマーケティング投資需要が堅調に推移する中、顧客との接点全体を見据えたマーケティング設計力・ク

リエイティブ制作力に対するニーズは引き続き高く、関連市場は安定した成長が見込まれます。

このような事業環境の中、主要取引先を中心とした既存案件の深耕及び新規案件の提案活動を継続し、取引領域の拡大を図っております。また、当社グループのメッセージング×AIとの連携を深めることで、顧客企業に対する統合的なマーケティング支援の強化と、さらなる事業成長の加速を推進してまいります。

これらの結果、当セグメントの売上高は160,088千円、セグメント利益は17,959千円となりました（前年同四半期は連結対象外であったため、前年同四半期増減率の記載はありません）。

- (※1)「Customer Relationship Management」の略で、顧客情報を一元管理・分析し、営業、マーケティング、カスタマーサポートなど、あらゆる業務の効率化と売上向上につなげることを目的とした手法やそのためのシステムのことを指します。
- (※2)「Marketing Automation」の略で、見込み顧客の獲得から育成、既存顧客への継続的なアプローチまでを、デジタル技術によって自動化・効率化する仕組みを指します。
- (※3)「ショートメッセージサービス」の略で、相手先の電話番号だけで文字情報を送受信できるサービス。
- (※4) Rich Communication Servicesの略で、世界的に標準化されている次世代メッセージングサービスの国際規格です。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて77,494千円増加し、3,162,134千円となりました。

これは主に、預け金が86,835千円、ソフトウェアが53,063千円それぞれ増加した一方で、ソフトウェア仮勘定が64,289千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は前連結会計年度末に比べて60,400千円減少し、1,077,825千円となりました。

これは主に、未払消費税等が23,544千円、長期借入金が23,001千円、未払金が11,665千円それぞれ減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて137,894千円増加し、2,084,308千円となりました。

これは主に、利益剰余金が121,548千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間における業績は概ね当初計画どおり推移していることから、2026年12月期の業績予想については、2026年2月13日公表の「2025年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて開示いたしました通期業績予想から変更はありません。現時点において、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。今後、業績予想を修正する必要がある場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,815,691	1,790,142
売掛金及び契約資産	685,569	718,823
前払費用	29,666	47,248
その他	39,149	129,076
貸倒引当金	△3,103	△11,348
流動資産合計	2,566,973	2,673,943
固定資産		
有形固定資産	4,735	4,628
無形固定資産	400,001	378,578
投資その他の資産	112,929	104,984
固定資産合計	517,666	488,191
資産合計	3,084,639	3,162,134
負債の部		
流動負債		
買掛金	379,503	388,751
1年内返済予定の長期借入金	92,004	92,004
未払金	60,847	49,181
未払費用	20,718	12,458
未払法人税等	74,990	68,605
預り金	10,223	7,572
契約負債	2,772	8,895
株主優待引当金	87,273	87,009
その他	64,897	41,352
流動負債合計	793,231	755,831
固定負債		
長期借入金	344,995	321,994
固定負債合計	344,995	321,994
負債合計	1,138,226	1,077,825
純資産の部		
株主資本		
資本金	40,094	41,428
資本剰余金	940,945	942,279
利益剰余金	1,175,437	1,296,986
自己株式	△300,625	△300,625
株主資本合計	1,855,851	1,980,068
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	403	3,642
その他有価証券評価差額金	57	57
その他の包括利益累計額合計	461	3,700
新株予約権	90,100	100,539
純資産合計	1,946,413	2,084,308
負債純資産合計	3,084,639	3,162,134

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	930,767	1,331,414
売上原価	553,549	852,392
売上総利益	377,217	479,021
販売費及び一般管理費	237,279	282,635
営業利益	139,938	196,386
営業外収益		
受取利息	703	1,853
為替差益	409	—
その他	56	—
営業外収益合計	1,169	1,853
営業外費用		
支払利息	5	1,453
為替差損	—	195
営業外費用合計	5	1,649
経常利益	141,102	196,590
特別損失		
投資有価証券評価損	7,185	—
特別損失合計	7,185	—
税金等調整前四半期純利益	133,917	196,590
法人税、住民税及び事業税	14,893	68,889
法人税等調整額	37,624	6,152
法人税等合計	52,517	75,041
四半期純利益	81,400	121,548
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	81,400	121,548

(四半期連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益	81,400	121,548
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△2,562	3,239
その他の包括利益合計	△2,562	3,239
四半期包括利益	78,837	124,787
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	78,837	124,787
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	8,053千円	11,333千円
のれんの償却額	327千円	10,196千円

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、国内外のB2C事業者に対してSMS・RCSの配信プラットフォームを提供する「スマートメッセージング事業」、ノーコードAI分析ツール「Deep Predictor」を主要サービスとして展開する「AIトランスフォーメーション事業」及び企業のコミュニケーション領域における広告企画・メディア運営等を行う「マーケティングソリューション事業」の3つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントに属する主なサービスは以下の通りです。

- ・スマートメッセージング事業：主にB2Cビジネスを営む国内外の事業者に対して、エンドユーザーの保有するモバイル端末にSMSやRCSを配信するためのプラットフォーム「絶対リーチ！RCS」を提供しております。
- ・AIトランスフォーメーション事業：ノーコードAI分析ツール「Deep Predictor」等により企業の意思決定やDXを推進する「AI関連サービス」を主要サービスとして展開しております。
- ・マーケティングソリューション事業：コピーライターや編集者などの企画者とシステムエンジニアなどの技術者を擁し、企業のコミュニケーション領域における広告企画・制作、メディア運営・開発、及びそれらに付随するシステム開発等を行っております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントは、従来「Smart AI Engagement事業」と「マーケティングソリューション事業」の2区分により開示しておりましたが、AIサービスの事業拡大に伴い、従来の「Smart AI Engagement事業」を「スマートメッセージング事業」と「AIトランスフォーメーション事業」の2セグメントに変更し、この結果、「マーケティングソリューション事業」と合わせ、現在は3セグメントを報告セグメントとしております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しており

ます。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの会計処理の方法は、四半期連結財務諸表の作成において採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間（自 2025年1月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1. 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スマートメ ッセージン グ事業	AIトランス フォーメー ション事業	マーケティン グソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	901,284	29,482	—	930,767	—	930,767
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	901,284	29,482	—	930,767	—	930,767
セグメント利益又はセグメン ト損失 (△)	261,055	△8,541	—	252,513	△112,575	139,938
セグメント資産	583,742	26,224	—	609,966	1,616,112	2,226,078
その他の項目						
減価償却費	6,253	—	—	6,253	1,799	8,053
のれん償却額	327	—	—	327	—	327
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	14,704	—	—	14,704	—	14,704

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費等であります。

2. セグメント資産の調整額、その他の項目の減価償却費の調整額、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、全社資産に係るものであります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間（自 2026年1月1日 至 2026年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1. 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スマートメ ッセージン グ事業	AIトランス フォーメー ション事業	マーケティン グソリューション事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,118,364	52,960	160,088	1,331,414	—	1,331,414
セグメント間の内部売上高 又は振替高	51	—	—	51	△51	—
計	1,118,415	52,960	160,088	1,331,465	△51	1,331,414
セグメント利益	298,467	9,161	17,959	325,587	△129,201	196,386
セグメント資産	687,087	38,865	404,488	1,130,441	2,031,693	3,162,134
その他の項目						
減価償却費	9,467	—	61	9,529	1,804	11,333
のれん償却額	327	—	9,869	10,196	—	10,196
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	—	—	—	—	—	—

(注) 1. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費等であります。

2. セグメント資産の調整額、その他の項目の減価償却費の調整額、有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、全社資産に係るものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。